

金沢仏壇

歴史

文明3年(1471年)に蓮如上人が加賀と越前の境の吉崎で浄土真宗の布教をはじめた。加賀一円にその教えが広がった。各集落に道場が設けられるようになり、信仰の寄り合いの場となるとともに各地に御講ができ、仏壇の必要性も生まれた。

藩政時代に入って、金沢で仏壇が本格的に製造されるようになった。特に、3代藩主前田利常(17世紀後半)は、京都・江戸などから加賀藩細工所に名工職人を呼び、美術工芸の基礎を築いた。その後、多くの職人が住みつき、木地師、塗師、蒔絵師、彫刻師、金具師の完全分業体制で製作にあたるようになった。

特色

最大の特色は、加賀蒔絵の伝統を受けた上品な蒔絵の美しさと変色しないことである。また、木地は耐久性を重視し、骨組みはアオモリヒバを主に用い、枿[ほぞ]組で組み立てているため、堅牢な仕上がりとなっている。

木肌を生かした彫刻、加賀彫りの金具、障子の紗生地に金糸の刺繍、錆紐[さびひも]引きと呂色[ろいろ]仕上げ、蒔絵に施された象牙や青貝の象嵌、金箔を使った加飾等の豪華な仕上がりは美術工芸品の風格を兼ね備えている。



金澤佛壇

歴史與特色

1471年、蓮如上人在加賀と越前の邊界處——吉崎傳教、宣揚浄土真宗、其教義在加賀一帶廣為流傳。信徒們為了提高信仰在各個村落開設道場、因此佛壇的必要性就產生了。

到了17世紀、金澤開始正式製造佛壇。17世紀後期、第三代藩主前田利常從京都和江戸招攬能工巧匠、致力於振興加賀的美術工藝。其後、眾多能工巧匠移住到金澤、木工匠、漆工匠、泥金畫師、雕刻工匠、金屬零件工匠等分工製作佛壇、因此佛壇製造技術得以發展。

其美麗優雅的泥金畫技術和耐久性強的木材則是金澤佛壇的特色。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	仏壇(佛壇)
主な生産者(主要生産者)	金沢仏壇商工業協同組合(金澤佛壇商工業協同組合) 〒920-0855 金沢市武蔵町8-2 瀬沢ビル3F(金澤市武蔵町8-2 瀬沢大廈3F) TEL (076)223-4914 FAX (076)232-6714 MAIL info@kanazawa-but sudan.or.jp http://kanazawa-but sudan.or.jp